

大淀の祇園祭^{ぎ おんまつり}

【日 程】 7月下旬から8月上旬

東区は宵宮として前日に実施

【場 所】 三世古、山大淀、東区

【参加者】 自治会、祭典委員会、青年団など

【願 い】 厄除け、疫病退散、氏子安全、漁業・農業の繁栄など



動画はこちら

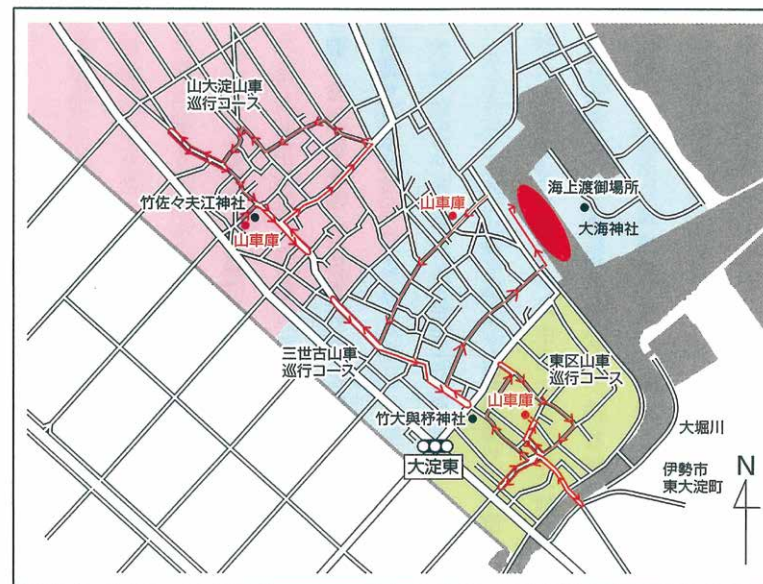
大淀祇園祭は、明和町大淀地区の「東区」、「三世古」、「山大淀」の3地区それぞれで行われる祇園祭の総称です。祭りは須佐之男命^{すさのおのみこと}を祭神とし、江戸時代中期から続けられており、かつては旧暦6月14日、15日に行われていました。地元では270年の歴史があると言われています。

それぞれの地区が山車^{だし}を所有しており、それぞれに飾りや大きさに違いがありますが、上山と下山からなる二層構造の「屋台型」で、直径1m前後の車輪が4つ付いている「外輪式」で、地区を巡る時の車輪のきしむ音が祭りの盛り上がりを演出します。

地区内を巡る時には「囃子方^{はやしかた}」が山車に乗り祇園囃子を演奏します。山車以外にも「一万度^{いちまんど}」、「傘鉾^{かさぼこ}」などの役が行列を作り地区を巡ります。

狭い路地を山車が進む様子はとても迫力があり、関係者の息の合った操作で山車が勢いよく方向を変える場面は見どころの一つです。

大淀の祇園祭は、各地区に特徴や見どころがあり、大淀地域の人々が一体となって伝統を守りながら、次世代への継承に取り組む、明和町を代表する夏の一大行事です。



3地区で山車のルートなどに
違いがあるよ。比べてみよう！
大淀祇園祭地区割り・山車巡行コース図

*この内容は平成30年(2018)度実施した映像記録事業での聞き取り調査や過去の調査資料をもとに作成しました。内容が変更になっている可能性があります。

キーワード：伝統行事・風習、祇園祭、津島信仰、海上渡御、山車、花火、三世古、山大淀、東区、無形民俗文化財

大淀の祇園祭【東区宵宮】^{よいみや}



動画はこちら

東区は宵宮として、三世古・山大淀よりも1日早く祭りが行われます。京都の八坂神社の流れをくむといわれています。

山車は明治末頃につくられたものと伝わっています。祭り当日には、御神鏡^{ごしんきょう}と鳥居^{とりい}が山車の2階に置かれます。夕方、山車が出発し、夜にかけて地区内を巡ることが特徴です。

昭和63年(1988)に飾り山車となり、囃子^{はやし}の伝承^{でんしょう}が途絶えかけましたが、平成8年(1996)に地域の子どもの為に祭りを残したいとの声により復活しました。現在、お祭りの運営は自治会^{さいてん いんかい}と祭典委員会が主催しています。

【東区の人びとがおすすめする宵宮の見どころ!】

夜に曳き回しが行われるのは東区のみで、提灯^{ちようちん}の灯りに照らされた神様を乗せた山車と囃子方^{はやし かた}の姿が幻想的な雰囲気^{げんそうてき ふん い き}があり、翌日に行われる祇園祭りに繋がります。

かつて囃子方に参加できるのは、一家の長男でしたが、祭りを継承していくために現在は男女・年齢を問わず誰でも参加できるようになりました。

祭りにはさまざまな役割があり、小学生のチャンギリ、中学生以上の囃子方、山車の舵^{かじ}を担う梃子^{てこ}、曳き手であるねどりなどがあります。ねどりは大淀地区だけでなく地区以外からの参加もあり地元住民にも歓迎されています。

この祇園祭りは五穀豊穡^{ごこくほうじょう}・疫病退散^{えきびょうたいさん}を願うだけでなく、昔は老若男女が集まる為、縁結び^{ろくにゃくなんによ}の場ともなっていたようです。東区では伝統を守りつつ、現代に合った祭りの形に進化を続ける活気ある祭りです。



大堀川橋での山車



竹大與杼神社前での山車



ゴールの山車庫に到着

大淀の祇園祭【三世古】



動画はこちら

三世古の祇園祭は、愛知県の津島神社の流れをくむといわれています。三世古は大淀の祇園祭でも中心となる地域で、町内のスポーツ少年団からなる神輿の巡行や、夜には花火も打ち上げられて規模も大きいです。祭りは祭典委員によって進められ、青年団が準備や囃子を担当します。山車は昭和28年(1953)に作られた2代目で、大淀の3地区の中でも山車が最も大きいものです。

地区の巡行では、天狗を先頭に一万度、傘鉾、小幟、大幟が山車の前を行進します。夕方、満潮になる頃に大淀漁港に到着し、なりひら号とゆきひら号の2艘の舟に山車をのせ、漁港内で海上渡御が行われ、祭典委員は港の対岸にある竜宮さん(大海神社)に船の上から参拝します。夜になると巡行を終えた山車は業平公園の前に置かれ、漁港内で打ち上げ花火が行われます。

【三世古の人びとがおすすめする祭りの見どころ!】

お神酒で清められた氏子たちが業平松の前に集まり、曳き出し前は賑やかに盛り上がります。大淀漁港から上がる号砲により曳き出された山車は、曳き手である「ねどり」の力加減や舵取り役である艇子の技量などの差で同じルートを通りながらも少しずつ道筋が違ってきます。そのため、時には屋根瓦を壊したり縁石に乗り上げるなどハプニングもおこりますが、祭りはさらにヒートアップしていきます。山車の綱が長く、天狗を先頭とした前方は祭り装束(カンバン)を着た子ども達が家族と綱を曳く姿も夏の風物詩のひとつです。

大淀漁港を練り歩き、「海上渡御」のため2艘連ねた舟に2トンの山車が載せられる姿は圧巻! 対岸から祝砲(ヒルハナ)が上がり、船は竜宮さん弁天さんが祀られている対岸に向かいます。

夜には港の目前から上がる迫力ある花火、山車と祇園囃子の音色により風情ある祭りを体感できます。



狭い路地を通る姿は迫力満点



慎重に舟にのせられる山車



海上渡御 鳥居の奥に漁業の安全を守る竜宮さん(大海神社)がある

大淀の祇園祭【山大淀】^{やまおおよど}



動画はこちら

山大淀の祇園祭は、竹佐々夫江神社の祭礼行事で、愛知県の津島神社の流れをくむといわれています。普段は神社に祀られている須佐之男命を山車の最上部に祀り、色鮮やかに山車が飾られます。山車の上部は19世紀前半頃に作られたもので、3地区の中でも最も古く、屋根の彫り物なども美しく貴重なものです。1階部分は山大淀の地元大工によって直されています。山大淀地区は16組から成り、祭りを担当する当番組が順番に回ってきます。

地区の巡行では、神社総代を先頭に一万度、大幟、傘鉾、乙姫、天狗が山車の前を行進します。

午後7時過ぎに巡行の終点である竹佐々夫江神社に到着し、神社西側の交差点部分で3回山車が回され手締めが行われます。

【山大淀の人びとがおすすめする祭りの見どころ！】

地元愛が強く伝統を重んじる山大淀は、本祭事を自治会行事とし、子供たちも含め在所全体で取り組みます。

塩まき、榊が道を清め、天狗や一万度と呼ばれる若者が守りし、色鮮やかな飾りが取り付けられた傘鉾、乙姫も祭りの魅力を高めていきます。

巡幸では、家々の前や交差点で山車を止め邪鬼を払い、人々は感謝を込め玉串などを奉納しながらゆったりと曳いていきます。また、狭い道では「梃」「輪止め」という役を担った人たちの巧みな舵さばきで無事に通過させていくのも見どころです。特に曲がり角になると、祇園囃子のテンポを上げ「速弾き」を奏で、一挙に曲がり切る姿こそは、まさに圧巻。そして、気が付けば山車の提灯には灯がともり、いよいよ勇壮かつ華麗な祭りのクライマックスへと向かっていきます。



山大淀にしかない乙姫役



高覧に取り付けられたたくさんのお供えの札



竹佐々夫江神社に到着した山車